

リスク管理

メディアで紹介された健康関連商品やサービスが一大ブームとなることは過去にもしばしば見受けられた。しかし、前者については実際にダイエツト方法を試した消費者の健康被害が900件以上発生し、入院患者を出

ダイエツトをめぐる「白インゲン豆食中毒事件」や「納豆の健康データ捏造事件」等、「食と健康」に関する問題がここ最近頻繁に取り沙汰されている。これらの事件では「情報操作」や「情報発信の杜撰さ」等、主としてマス・メディアの体制に責任を求める意見が多く聞かれる一方で、「食と健康に関するリスクマネジメントは誰が行うか」といった根源的な問題が取り上げられる機会は少ない。

リスクマネジメント

ABC

フーズコミュニケーター

食と健康に関する代表的なフーズリスクのコミュニケーター

※各団体HPより抜粋

資格・制度名	団体名	活動／業務内容
健康食品管理士	健康食品管理士認定協会	健康食品等の安全性、効果、医薬品との相互作用及びその取り扱いに関する知識を有し、(中略)消費者に対し健康食品等を適正に利用することとその被害から守る指導的役割を担う
栄養情報者(NR)	独立行政法人国立健康・栄養研究所	「健康食品」等に関する正確な情報・知識を有し「NR」の名称を用いて、消費者に対して「健康食品」等に関する適切な情報を提供する
サプリメントアドバイザー	日本サプリメントアドバイザー認定機構	サプリメントの正しい最新情報や知識、活用する方法について啓発を行うとともに、公正で正しい判断、サプリメントについて消費者自らの判断による選択ができるよう手助けを行う

「食と健康」を守る砦に

す結果となった。後者については表立った健康被害には至らなかったものの、メーカーや小売店は商品の価格急騰・急落による煽りを受け、一時的「ダイエツト」というキーワードと意図的に結び

付けられたことによって、通常販売／使用する上では予測できないリスクを背負ったことである。商品自体には問題がなくても、情報発信の過程で第三者の意図が加わることで、本来起こらないはずの食生活の混乱や健康被害をもたらす危険性がある。

現在、食と健康に関する資格・認定制度は様々な段階で整備されつつあり、医師、薬剤師等の既存の資格制度を活かした専門家も誕生しつつある。資格の増加に伴いフーズコミュニケーターとしての「資格要件」や「活動範囲」といった専門性やレベル、普及における課題が見受けられるようになってはいるが、今後は「食と健康の情報」の取り扱いにフーズコミュニケーターの積極的な活動が期待できるだろう。

(日本総合研究所)